

# 3ミリの穴から撮影



奥田商事（本社広島市西区横川町二丁目、資本金百万円、奥田耕造社長）が昨春、広島県がベンチャー企業を対象にした研究開発型企業育成融資制度の適用を受けて開発、発売した「8mm防犯カメラ」の売れ行きが好調である。既に二千台を売り、米国、東南アジア諸国など海外からの引き合いも舞い込んでい

る。同社は、防犯カメラの需要が急増した五十四年に設立。ビデオ型防犯カメラのほか、8mmフィルムを使った安価な防犯カメラで業績を伸ばしてきた。

昨春発売した製品は、金融機関の現金自動支払機コーナーの裏側に設置。直径3ミリの穴から利用者を撮影でき、連続撮影、日時の写真

ベンチャー奥田商事開発

海外からの引き合いも急増

し込み、穴をふさがれた場合の警報機能などを備えている。小売価格は約三十九万円で、16mmカメラの約五十万円、ビデオの六十三万円に比べて買いやすく、新機種発売で売上高は年間約八億円と倍増した。

国内でのシェアが高まるにつれて、香港、シンガポール、マレーシア、オーストラリア、アメリカ、ヨーロッパの既存取引先から引き合いも急増。来月下旬、米サンシエゴで金融機関の会議が開かれる際に奥田社長が乗り込んで、一気に売り込みを図る計画でいる。